

Bangladesh 国別評価の概要

1. 評価結果

現行の国別援助計画(援助計画)は Bangladesh の開発政策、日本の ODA 上位政策、当時の国際的優先課題等を十分踏まえて、適時に良好な関係者との協議・調整のもとに策定されている。一方で、 Bangladesh の政策変更等への対応については、援助計画のモニタリング体制が不十分等により、援助計画の見直しなしに、実施レベルでの対応となった等の課題もある。現地 ODA タスクフォース(現地 TF)による知見の蓄積とスキーム間連携・援助のプログラム化の推進により、援助計画に従い、各重点セクターの内においては課題を絞って資源を集中的に投下しており、戦略性は高い。他方、最重要課題である貧困削減については、貧困率の減少は見られる一方、地域格差や最貧困層の問題は依然として大きい。また、援助計画ではセクターを超えた目標が共有されず、協力の成果もセクターの枠をほとんど超えていない。現地 TF の役割や体制については、こうした限界を乗り越えるため、また、新 JICA 発足等の環境の変化にともない、再検討が必要である。

2. 提言

(1) 重点課題に対するセクター横断アプローチによる「選択と集中」

援助計画改定の際には、従来のセクター志向ではなく課題志向アプローチ、つまり「貧困削減に資する経済成長」、「社会的弱者への支援と社会サービス提供のための「制度インフラ」の強化」、「気候変動に対する脆弱性への対応」等の重点課題の克服のために、セクターを越えた戦略性の高い援助とすることが望まれる。

(2) 効率的なモニタリング体制の整備と現地 ODA タスクフォースの再編による政策の PDCA サイクル強化

援助の PDCA サイクル強化のために、援助計画のモニタリング体制の整備を行う。また、現地 TF では、大使館や JICA 等の現地トップレベルの意思決定や重点課題での援助戦略を軸とし、これにセクターグループが貢献するよう再編する。東京 TF では継続的な体制のもとに、現地 TF と意思疎通をはかりつつ、状況に応じた援助計画の見直し等を行うことが重要である。

(3) 他のスキームや他ドナーと連携によるグッド・プラクティスの「スケールアップ」

日本は「資金」だけを Bangladesh に持ち込んでいるのではなく、「開発のアイデアや好事例」を持ち込んでいるという認識に立ち、他ドナーとの連携及びスキーム連携によるグッド・プラクティスの「スケールアップ」戦略をより一層推進すべきである。

(4) NGO や社会的企業の持ち味を活かした支援の拡大

最重要課題である貧困問題へのとりくみとして、「人間の安全保障」にもとづき、かかる支援に優位性を持つ NGO や社会的企業等の市民社会の持ち味を生かしたより一層の連携を、「people to people の支援」の視点に立って促進すべきである。